

いきいき

VOL.24
平成22年1月13日
いわき市総合教育センター

■ 3学期の教育活動充実にあたって

- 新年おめでとうございます。各校では新たな気持ちで第3学期の教育活動にあたっていると思います。
- 今年も、特別な支援が必要な子へのかかわりをよろしくお願いします。
- 今号では、各学校で課題となっている多動性・衝動性について考えてみます。

「多動性・衝動性の問題を抱える子どもへの対処のしかた」

1 観察して原因を探る

○ 観察の視点

- ・ どういうときに起こるのか、どのくらい続くのか。
- ・ どう言えば(どうすれば)落ち着くのか。
- ・ 継続的に起こるのか突発的なのか。
- ・ とった行動について本人はどう捉えているのか。
- ・ 誘因となっているモノはないか(家庭環境や友人関係、学習……)。

2 原因を考慮して対処する

	原因として考えられること	対 処 の 例
ストレスや不安	学習面に関すること	・ 「できるところ」、「曖昧なところ」、「できないところ」をチェックし、つまづいているところを明らかにする。
	友人関係に関すること	・ 学習意欲をなくしている場合は、得意分野から始め、飽きない程度の学習内容、量に配慮し、継続させることを心がける。
	過剰な期待に関すること	・ 本児を馬鹿にしないような級友を3～5人程度のグループにして、そこからかかわりを持たせるようにする。
	自尊心の低下によること	・ 本人が「がんばることができる範囲」または「我慢できる範囲」を把握し、達成できそうな目標を設定する。
未熟さや傾向	善悪の判断	・ 小さい成功体験の積み上げさせる。
	言語表現	・ 日頃から労いと承認をこまめに行い、自己肯定感を持たせる。
	自己モニタリング	・ 行動の振り返りを習慣づける。
	感情や行動のコントロール	・ 行動や感情を言語化させることを意図的にさせる。
養育	結果を考えずに行動してしまう衝動性	・ 鏡やビデオに写して自分の表情や行動を客観的に見せる。
	相手の表情の読み取りの鈍感さ、または過敏さ	・ 注意が逸れないような環境整備を配慮する。
	保護者から虐待(コミュニケーションの手段が暴力的になりがち)	・ 子どもの話を聴く機会を多くもつ。
	発達障がいの可能性(指導を繰り返しても、一向に行動に変化があらわれない場合)	・ 行動した後予想されることをいくつか考えさせる習慣をつける。
障がい		・ 言葉で理解しづらい場合は略図入りの筆談で示す。
		・ サンタクロースや鬼の絵など表情が分かりやすいものを使って、読み取りの練習をする。
		・ 保護者自身に問題を抱えている場合は、協力者として期待するよりも、保護者もサポートする気持ちで対処する。
		・ 場合によっては学校のみで対応するのではなく関係機関の協力を得る。
		・ 特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を設け、詳しく行動について検討する。その上で専門機関に相談する。
		・ 保護者の承諾を得て発達検査を実施する関係機関と連携を図り、個別にソーシャルスキルトレーニングを実施することも視野に入れる。

「いきいき」についてご意見、ご質問があれば総合教育センター松崎までご連絡ください。